

サルヴェ Salve

2023
2024

Vol.

2

The Salvation Army in Japan Annual Report

救世軍 年次報告



救世軍は1865年にイギリスで誕生し、1895年から日本でも活動しています。



あなたは私の目に貴く、 重んじられる。

イザヤ書43章4節

ごあいさつ

救世軍司令官 スティーブン・モーリス

救世軍日本軍国の働きについて、年次報告をお届けできることを大変光栄に思います。この年次報告をご覧になる皆様には、各事業に関わる人々がニーズを抱えたひとりの人や家族を代表しているということ、また、皆様からご支援いただいた資金により、救世軍がタイムリーかつ費用効率のよい方法で人々のニーズを満たす支援ができていくということ、心に留めていただければ幸いです。

神様は救世軍が、人生の歩みの中で暗闇を経験している多くの人々にとっての光となるようにと導いておられます。ひとつの家族が困難に陥り、温かい食事を必要としている場合でも、また、地域全体が生活を一変させるような自然災害に見舞われている場合でも、救世軍は可能な限り奉仕する備えを整えています。手を差し伸べ、今より先にはより良い日々があるという希望を人々にもたらすことが、神様から与えられている私たちの使命であると信じています。そして、困難なときには神様が必ず助けてくださると証明する役割を担っています。

救世軍の創立者、ウィリアム・ブース大將は晩年を迎え、救世軍の年次総会に出席することができなかつたとき、希望を失った人々に希望をもたらすように尽力してきた同労者に向けて、電報でメッセージを送ってほしいと依頼されました。この時、ブース大將が送ったたった一言の電報メッセージは、すべての地域における救世軍の奉仕の姿を体現するものとして今日にも生きるものです。ブース大將の励ましと応援のメッセージとはこれです。「人々に」(“Others”)。

皆様の救世軍への変わらぬご支援に感謝を申し上げます。私たちは、救世軍の日々の働きを通してすべての人々に神様の希望がもたらされ、豊かな祝福があるように祈ります。今日も、そして日々、皆様への奉仕に携わることができるのは私たちにとって大きな祝福です。皆様の上に今日も神様の豊かな祝福がありますようにお祈り申し上げます。

INDEX

- ごあいさつ ————— 01
- 特集
能登半島地震
被災地への支援 ————— 03
- 会計・募金のご報告 ————— 07
- 利用者・職員の声 ————— 08
- 支援方法のご案内 ————— 09
- 数字で見る世界の救世軍 ————— 11
- 数字で見る日本の救世軍 ————— 13
- 日本における救世軍の活動 ————— 15
- 2024～2025 イベントスケジュール — 18



私たちの使命は、世界中の困窮者・弱い立場にいる人々に、支援や援助にとどまらない本当の「救い」を提供することです。神の愛を伝え、奉仕し、人種や思想を超えたすべての人が安心・安全で明るい未来を描けるような日々と社会を目指し、活動に取り組んでいます。



避難所等にいる方々のニーズの把握を第一に

避難所で必要とされているのは「温かい物」

能登半島地震で被災された方々から情報収集し、避難所等でいま必要なものは何かを把握することから、今回の支援がスタートしました。必要とされているのは「お腹を満たし、ホッとさせてくれる温かい物」だとわかり、救世軍では炊き出しをして昼食を提供することを決定。参加スタッフを救世軍の派遣メンバー（全国各地の施設職員や士官等）、能登ヘルプ（能登地震キリスト災害支援会）関係者、内灘聖書教会の



写真上：支援開始前には被災された方々の力になれるようにと祈りを込めて、スタッフで円陣を組み、手を重ねる時間もありました。写真下：炊き出しに必要なものを災害救援用給食車に積み込み、能登半島へ。

ミッションチーム、日本福音自由教会スタッフで構成し、体制を整えました。

炊き出しは、下ごしらえを東京都杉並区にある救世軍ブース記念病院の栄養科が、現地での調理を前述のスタッフが担当し、4月半ばまでに次の①～④を実施しました。

2月9日（金）

- ①昼食300食（野菜炒め、肉じゃが、ごはん）。輪島市の大規模避難所・門前中学校で生活する方々と近隣住民や周辺の避難所にいる方々に。
- ②60～70個の救世軍ドーナツと100杯のコーヒー。能登町の特別養護老人ホーム「こすもす」の職員の方々に。

3月6日（水）

- ③昼食390食（野菜炒め、焼肉、ナムル、佃煮、ごはん）。①と同様の方々に。

4月17日（水）

- ④昼食200食（野菜炒め、焼肉、ナムル、サクラ漬け、うぐいす豆煮、ごはん、救世軍ドーナツ）。能登町の公立宇出津総合病院と升谷医院の職員の方々に。

持続可能な支援のしかたを探りながらの作業

避難所にいる方々とスタッフをつないでくださっていたブラス・トラス宣教師夫妻や現地関係者は、継続支援の必要性について話されていました。被災された方々が元の生活に戻り、落ち着いた毎日を送るまでには、細くても長い支援が不可欠です。

スタッフは継続支援の必要性を肌で感じており、作業中には「次の炊き出しでは

特集

能登半島地震被災地への支援

2024年1月1日、石川県能登地方でM7.6の地震が発生し、県内外で最大5万人以上の人々が避難生活を余儀なくされました。震度7を記録した輪島市では、漆器・輪島塗の工房も大きな被害を受けました。救世軍では、避難所での炊き出しと、倒壊した蔵から輪島塗の貴重な作品を取り出す作業を通して、被災者の方々への支援を行っています。



被害は甚大で、継続支援が不可欠

調理のリーダーと全体のリーダーを分けたほうが良い」「炊けたごはんを釜から移し替えるための準備はしておこう」などと考えていたといいます。それはすなわち、作業の時間が、持続可能な方法を探り、継続支援を見据える時間になっていたということです。また、今後の支援をより効率的に行うための資料になるよう、炊き出しの実施日に作業内容を細かく記録することも決めました。



「炊飯量に対して釜が少ない」「外気が低く食材を熱するのに時間がかかる」など問題点も多くありましたが、無事に提供できて「おいしい」の声があちこちから聞こえると、スタッフは安堵と喜びに包まれました。

②と④では、発災後、緊張感のある状況下で施設利用者や入院患者の方々のケアを続けるエッセンシャルワーカーの皆様にも温かい物を届けることができました。現地の店舗の多くはいまだに稼働できていないため、利用者や患者の方々への食事提供はできても、エッセンシャルワーカーまでは行き届かないというのが現状です。能登ヘルプ（能登地震キリスト災害支援会）がそこに着目したことで、②と④の支援にいたりました。

②では周囲の被害状況などを確認するコミュニケーションの機会も得られました。「被害状況の行政確認が済んでいないので、いまは家に手を入れられない」「亀裂の入った道路も多く復旧を待っている」といった状況もあり、それを受けて、スタッフからは「報道されない部分の被害の大きさを周囲に伝えていきたい」という声もあがっています。

倒壊した蔵から輪島塗の作品や道具、塗料を取り出す

日本三大漆器のひとつである輪島塗の工房も、能登半島地震で大きな被害を受けています。救世軍では能登ヘルプ（能登地震キリスト災害支援会）との連携のなかで、輪島聖書教会の荒川牧師から依頼を受け、倒壊した蔵から漆器や重箱といった貴重な作品を取り出す作業を支援しています。輪島市の産業の多くは輪島塗に関係しており、この支援は輪島市、ひいては能登地方全体の支援につながります。また、江戸時代から続く輪島塗の文化を守る意味でも大切な働きと言えます。

作業には、2018年の西日本豪雨災害、2019年の台風19号による豪雨災害の際にも救世軍と協働して支援にあたった重機チーム（広島県の建築業者）の派遣をお願いしました。2月後半からスタートし約2か

月、多くの作品が重機チームの丁寧な作業によって取り出されています。作品の取り出し以上に喜ばれているのは、筆、器具、漆など二度と手に入らない貴重な道具や塗料が、もう一度、職人の方々の手に戻ったことかもしれません。これにより、輪島塗工房の継続を決断された職人の方もいるといえます。同支援は他団体との協働で、今後もうできる限り継続していく予定です。



輪島塗の作品に加え、筆、器具、漆といった貴重な道具や塗料が、倒壊した蔵から重機チームの作業により次々と取り出されています。なかには100年以上前から大切に使われてきたものも。



サポートに感謝します

ドーナツもり様

被災地への支援に向かう朝、雪のなか、救援スタッフのためにドーナツを届けてくださいました。4度目の支援を実施した際にも揚げたてのドーナツを早朝にご寄贈いただきました。

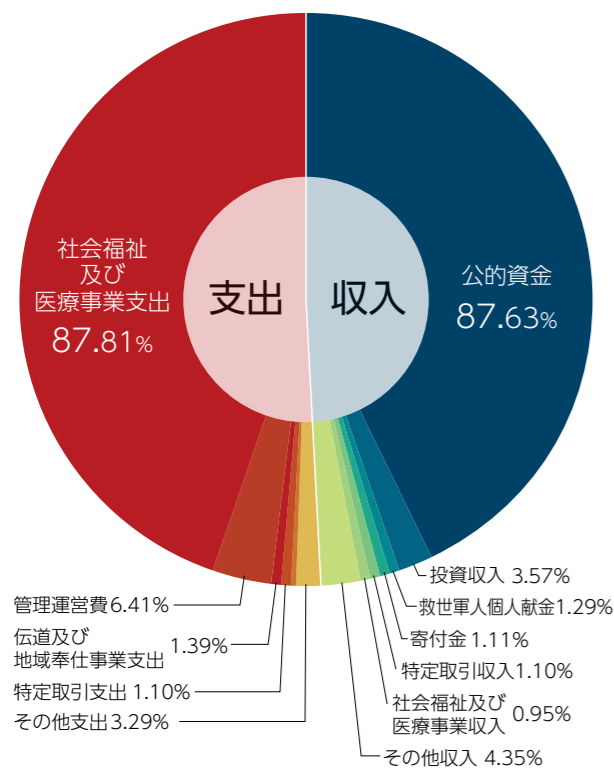
飯田屋様

東日本大震災以降、災害救援のための救援資材を継続してご提供いただいています。今回は、ごはんがくっつきにくい「極しゃもじプレミアム」をご寄贈いただきました。

会計・募金のご報告

支出が収入を上回る状況が続いています

救世軍では国内で2つの病院、19の福祉施設を運営しています。収入として公的資金が大きな割合を占めていますが、医療・福祉事業の支出がそれを上回り、公的資金だけではまかないきれない状況です。寄付金は収入の中で4番目に大きい割合となっています。より支援を広げるために、皆様のご協力をお願いいたします。



※この円グラフは救世軍新国際会計基準に準拠した日本の救世軍の連結決算です。社会福祉法人救世軍社会事業団の単独の財務諸表については、ホームページをご覧ください。
<https://www.salvationarmy.or.jp/about-org>

※救世軍の財務は、救世軍本営財務管理部による内部監査、ユアサハラ法律特許事務所による監査、国際本部である救世軍万国本営の会計検査官による監査の三重の体制で監査されています。また、社会福祉法人救世軍社会事業団の財務は、監督官庁による監査を受けています。

募金へのご協力を賜りありがとうございました

救世軍では年に4回の募金と、通年で救世軍サポート会募金を行っています。皆様からご支援いただいた資金は、それぞれの募金の目的に則した活動に活用され、救いを求める多くの人々の助けになっています。

きずな献金 (旧「一円献金」)

1,212,918 円

2023年度はミャンマーにおける人身取引防止のための啓もう活動のため

克己週間募金

9,201,820 円

海外の救世軍の活動資金として

感謝祭募金

10,656,603 円

国内の救世軍の活動資金として

社会鍋募金

7,150,745 円

災害支援、街頭生活者支援、児童・母子支援などのため

救世軍サポート会

10,137,510 円

救世軍の活動資金として



写真左が炊き出しの一例、焼肉弁当。写真下は避難所にてブラスバンド演奏をしたときの様子。



「喜んで奉仕してくれてありがとう」

能登半島地震で被災したブルース・トラス宣教師夫妻

避難所では被災者が中心となって食事の準備をする日も多く、疲れがとれない日々のなかで大きな負担になっていました。そんなときに救世軍の皆さんが、妻を通して避難所でリクエストを聞き取り、炊き出しをして、お弁当を提供してくれました。メニューも味もお弁当形式にさせていただいたことも非常に好評でした。皆さんのチームワークの良さや喜んでご奉仕する姿に、私はとても感動しました。さらにブラスバンド演奏をしていただき、ありがとうございました。皆さんのお気持ちは、避難所の皆さんの心にも届いたと思います。神様のお許しがあるなら、また一緒にご奉仕させていただける機会が与えられますようにと望みます。

「ニーズに沿った支援ができました」

能登半島地震でボランティア活動をした社会福祉法人の職員



職員① 2018年の西日本豪雨災害の際に広島県呉市でボランティアに参加。今回の能登半島地震でも、自分にできることがあるならしたいと思いました。活動後、被災されている方々から「ありがとう」という言葉を直接かけてもらえたとき、意味のあることをしていると実感できました。

職員② 今回の活動で良かったと思えたのは、食事支援の際に現地の声を聞いて、ニーズに沿った支援ができたことです。活動の期間中は同僚が職場で自分たちの仕事を担ってくれていました。現地に出向いているボランティアを陰で支えることもまた、支援の手段なのだとは再認識しました。

利用者・職員の声

支援方法のご案内

世界には、いまこの瞬間にも支援を必要としている人々が多くいます

生活水準が満たされない貧困者

約**11億**人



災害被害に遭った人

約**1億6,000万**人



学校に行けない子どもたち

約**2億4,400万**人



人身取引の被害者

約**4,030万**人



必要最低限の生活水準が満たされない人々は世界に約11億人^{*1}。自然災害で生活基盤が破壊される人々は年に約1億6,000万人^{*2}。また、小中高の学校に通うことのできない子どもは約2億4,400万人^{*3}、強制労働、性的搾取、臓器摘出のために人身取引の被害に遭っている人々は約4,030万人^{*4}いるとされています。

*1…2022年の購買力平価に基づき、国際貧困ラインを1日2.15ドルで計算
出所：Regional aggregation using 2022 PPP and \$2.15/day poverty line
*2…出所：内閣府 *3…出所：UNICEF
*4…出所：非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

食べ物の必要な人には食べ物を、住む場所のない人には家や仕事を

救世軍はこうした問題から目を背けず、助けを必要としている人々を救うために、世界134の国で日々活動しています。

1865年、イギリスの牧師であったウィリアム・ブースが「人々の救いのために働くように」という神の召命を感じたことが、救世軍の始まりでした。救いの第一段階として、貧困層や失業者といった社会の最も弱い立場にある人々に対して、基本的な生活支援を提供する必要がある、とウィリアム・ブースは主張しました。私たちが得ているような日常生活は、すべての人々に平等に与えられるべきだからです。

当時から現在まで変わらず、活動の背景には“3S”の思想があります。“3S”とは、

- Soup (食事)
- Soap (石けん・衛生)
- Salvation (救い)

の頭文字をとったものです。食べ物の必要な人には食べ物を、住む場所のない人には清潔な家や仕事を提供し、その上で魂の救いのために聖書のメッセージを伝える——これを基本的な支援のかたちとしています。



生活支援の一例。ニカラグアの人々の栄養不良を改善するため、野菜栽培のための土地を提供し開拓。

日本円の1,000円でできる支援には、どんなものがある？

あなたの1,000円があれば、基本的な生活支援が必要な低所得国に向けて、どんなことができるでしょうか。ここには一例として、医療福祉と教育の分野でできることを列挙します。すべてニカラグアの物価水準で算出しています。

医療福祉



約15リットルの水の提供

干ばつの影響を受けている人々や汚水の処理ができない人々へ、安全な水を届けます。

医療福祉



約8キロのお米の提供

貴重な主食となるお米を育てたくても、稲作に適した土地を有する国は多くありません。

医療福祉



約100粒のビタミンタブレットの提供

子ども用。子どもたちが重度栄養不良に陥ることを防ぐために必要な物のひとつです。

医療福祉



約12枚の医療用マスクの提供

重度栄養不良の人々の命は小さなきっかけで危機にさらされます。マスクが盾になります。

教育



約5名分のノートと鉛筆のセットの提供

子どもたちが初期教育を欠くことなく成長していく、その手助けになります。

教育



約5本の縄跳びの縄の提供

子どもたちの体力維持・増強につながります。「遊び」や「楽しみ」の提供にもなります。

すぐに可能なサポートの方法は3通りあります

助けを必要としている人々への支援の提供範囲をより広げていくために、もし可能であればサポートをお願いいたします。個人・企業・団体を問わずにできるサポートの方法は次の3通りです。

もちろん海外だけではなく日本にも、食物の提供が必要な貧困層や失業者、たびたび起こる自然災害の被災者などがおり、そうした方々への支援も絶えず行っています。

パソコン・スマホで

ホームページからの寄付

クレジットカード、郵便振替口座、銀行振込、現金書留を選択できます。クレジットカードでは一度の募金のほか、毎月の定額募金、毎年の定額募金も選ぶことができます。



支援を長期的に

サポート会への入会

救世軍の動きを、より多くの人に、より充実したものに。救世軍サポート会は救世軍の動きを一層充実させるために設けられています。



- 年会費（一口）
個人 3,000円
団体・法人 10,000円

- 会員特典
📖 会報送付
📢 イベント告知
👤 ボランティア活動の案内

SDGsの視点で

バザー活動への参加

使っていない、あるいはもう使わなくなった衣料、電化製品（型式の新しいもの）、書籍などをご寄贈ください。売上金は支援活動の資金として役立てられます。



数字で見る 世界の救世軍

救世軍は、キリスト教（プロテスタント）の教会と社会福祉・教育・医療施設等を通して活動しています。1865年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々を物心両面から救うためにその活動を始めました。現在は世界134の国で助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神の愛を伝えています。

国際本部

救世軍万国本営 — 本部 イギリス・ロンドン
 万国総督 — 大将 リンドン・バッキンガム
 (Lyndon Buckingham)
 救世軍が活動している国 — 134
 小隊（教会）・分隊（伝道所）— 14,893か所

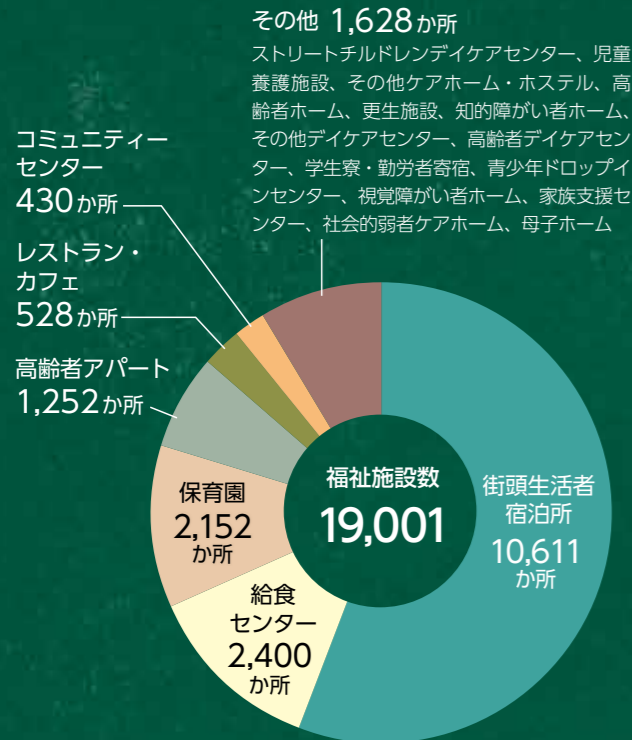
救世軍士官（伝道者） 26,374人

職員（牧師、右記の医師・看護師を含む） 100,950人

教師 19,572人

医師・看護師 5,370人
 その他医療従事者 1,909人

福祉



留置場支援数 49,109人
 失踪人探索取扱数 1,884人
 失踪人発見数 875人
 自殺防止パトロール支援数 287,814人
 職業紹介取扱数 98,647人
 カウンセリング 284,641人
 困窮者支援数 12,955,581人
 刑務所教誨訪問数 31,768回
 刑務所出所者支援数 41,369回
 定住促進事業 6件
 夏期福祉キャンプ 147件

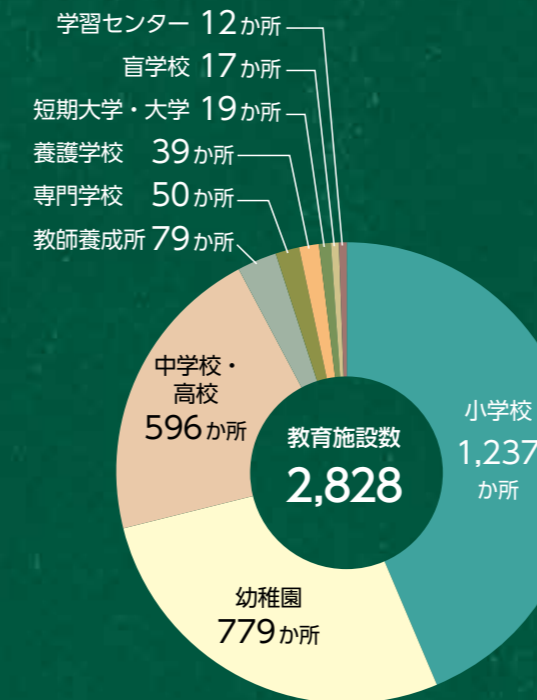
●地域開発
 小隊併設地域開発プログラム 53,148件
 パザール場 2,623か所
 リサイクルセンター 24か所

●災害支援
 災害被災者支援数 1,129,175人
 災害復興支援事業 90件 (51,215人)
 難民支援事業 70件 (134,731人)
 難民生活支援事業 61件 (106,337人)
 その他災害被災地支援事業 71件 (68,411人)
 災害給食車両 1,889台

●人身取引被害者支援

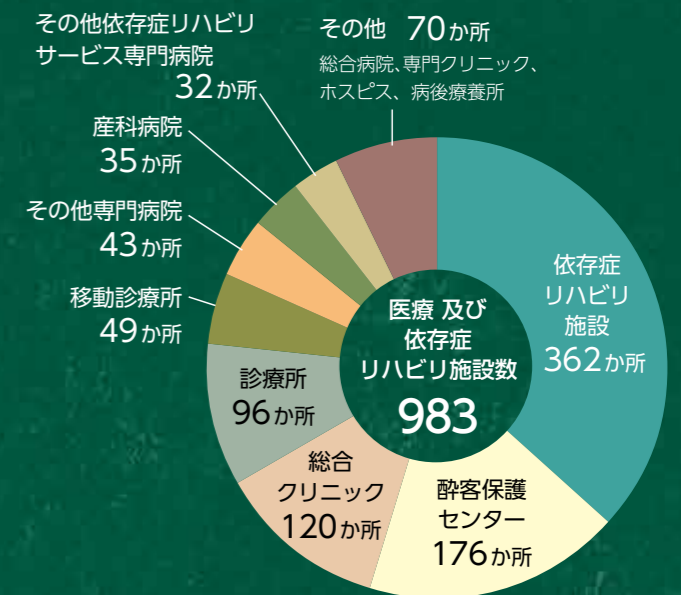
教育

生徒 557,460人



医療

外来患者数 1,200,901人
 入院患者数 314,027人



数字で見る 日本の救世軍

日本での活動は1895（明治28）年に12人のイギリス人士官が横浜に上陸して始まり、日本人最初の士官である山室軍平のもと、結核療養所の運営や廃娼運動に取り組んできました。今年で129周年を迎える日本の救世軍は、宗教法人として小隊（教会にあたる）での伝道活動や病院の運営を、社会福祉法人として児童養護施設などの運営を行っています。

救世軍士官 144人 職員 1,158人
 (伝道者)
 兵士 1,964人 ボランティア 209人
 (信徒)



しゃかいなべ 社会鍋

士官や職員、ボランティアが街頭で生活困窮者支援のための募金を行う。「社会鍋」と書かれた幕が目印。



災害支援

大規模災害発生の際、職員やボランティアが現地で炊き出し、瓦礫の撤去、埋もれた文化財の取り出しなどを行う。

子ども食堂

子どもにお弁当を提供。子どもの成長のサポート、家庭の負担軽減、子どもだけの在宅家庭の見守りなどを目的とする。

街頭生活者支援

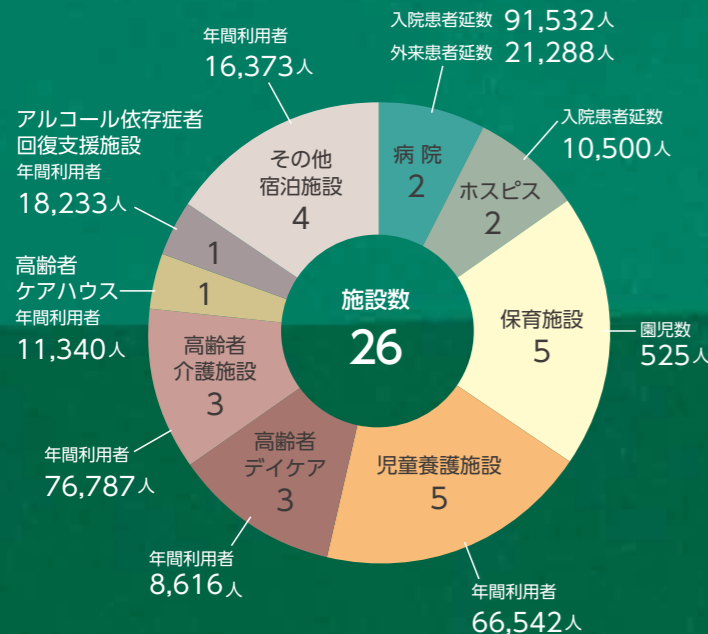
街頭生活者にお弁当や日用品を配布。街頭生活者の自立支援共同住宅に食料品（米、味噌、醤油ほか）などを提供。



医療支援

ホスピスを併設した救世軍清瀬病院（東京都清瀬市）と救世軍ブース記念病院（東京都杉並区）を運営。

医師・看護師 171人
 その他医療従事者 251人



社会福祉施設・病院

児童養護施設

- ★ 機恵子寮（グループホーム2戸） 東京都
- ★ 世光寮（グループホーム4戸） 東京都
- ★ 希望館 大阪府
- ★ 愛光園（併設：児童家庭・里親支援センター「明日葉」） 広島県
- ★ 豊浜学寮（グループホーム2戸） 広島県

女性自立支援施設

- ★ 婦人寮
- ★ 新生寮

保育園・保育所・認定こども園

- ★ 札幌市しせいかん保育園 ☎011-204-9560
- ★ 桑園保育所 北海道札幌市 ☎011-221-6630
- ★ 菊水上町保育園 北海道札幌市 ☎011-821-2879
- ★ 佐野保育園 栃木県佐野市（併設：学童保育「佐野こどもクラブ」） ☎0283-22-4081
- ★ 呉保育所 広島県呉市 ☎0823-21-4711

特別養護老人ホーム等

- ★ 老人保健施設・ブース記念老人保健施設 グレイス 東京都杉並区（併設：ブース記念ケアマネジメントセンター和田、ブース記念訪問介護ステーション ルツ・ナオミ） ☎03-3380-1248
- ★ 特別養護老人ホーム恵みの家（ユニット型） 東京都杉並区 ☎03-3381-7243
- ★ 特別養護老人ホーム・恵泉ホーム 東京都清瀬市 ☎042-493-5161
- ★ ケアハウス いずみ（併設：ホームヘルパーステーション いずみ） ☎042-496-7575

男子宿泊施設

新光館 東京都（※現在休止中）

アルコール依存症者回復支援施設

- ★ 自省館（救護施設） 東京都清瀬市 ☎042-493-5374

その他施設

- 男子社会奉仕センター 東京都杉並区 ☎03-5860-2992

バザー場

救世軍バザー場 東京都杉並区
 オープン 毎週土曜日 9～12時 中野富士見町（東京メトロ丸ノ内線）より徒歩10分

救世軍バザー場江東出張所 東京都墨田区
 オープン 第2・第4 土曜日 10～13時 錦糸町（東京メトロ半蔵門線/JR）より徒歩8分

両施設共、寄贈品受付、お問合せは ☎03-5860-2992 まで

病院

救世軍清瀬病院（併設：介護医療院シャロン）
 〒204-0023 東京都清瀬市竹丘1-17-9 ☎042-491-1411
 〈病棟編成〉 医療療養病棟60床、ホスピス緩和ケア病棟25床、介護医療院60床 合計145床
 〈各部サービス〉 医療福祉相談、健康管理講座、栄養相談、患者相談窓口、チャプレン相談窓口

救世軍ブース記念病院
 〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-5 ☎03-3381-7236
 〈病棟編成〉 地域包括ケア病棟32床、医療療養病床147床、ホスピス緩和ケア病棟20床 合計199床
 〈各部サービス〉 訪問診療、訪問看護、医療福祉相談、通所リハビリテーション、介護予防通所リハビリテーション、健康管理講座、栄養相談、患者相談窓口、チャプレン相談窓口

※★は社会福祉法人 救世軍社会事業団の施設

小隊（教会にあたる）

北海道連隊（地区）

- 本部 札幌市北区北22条西5丁目1-5 ☎011-788-5352
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 遠軽小隊 ☎0158-42-3409 | 札幌小隊 ☎011-788-5352 |
| 帯広小隊 ☎0155-23-4877 | 函館小隊 ☎011-788-5352 |

関東東北連隊（地区）

- 本部 高崎市寄合町5-1 ☎027-323-1337
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 桐生小隊 ☎0277-45-3117 | 仙台小隊 ☎022-273-2368 |
| 前橋小隊 ☎027-231-9533 | 若松小隊 ☎027-323-1337 |
| 高崎小隊 ☎027-323-1337 | 新潟小隊 ☎025-229-2003 |
| 佐野小隊 ☎0283-21-5939 | 浪江小隊（休止中） |
| 熊谷小隊 ☎048-522-2477 | |

東京東海連隊（地区）

- 本部 東京都墨田区太平4-11-3 ☎03-6261-5701
- | | |
|--------------------|---------------------|
| 上野小隊 ☎03-3873-5386 | 杉並小隊 ☎03-6256-8191 |
| 大森小隊 ☎03-6272-9771 | 月島小隊 ☎03-5860-2994 |
| 川口小隊 ☎048-267-9799 | 西新井小隊 ☎03-3889-3894 |
| 神田小隊 ☎03-3263-0848 | 横浜小隊 ☎045-714-6060 |
| 京橋小隊 ☎03-3551-0337 | 静清小隊 ☎054-365-8270 |
| 清瀬小隊 ☎042-491-7600 | 浜松小隊 ☎053-452-6717 |
| 江東小隊 ☎03-6261-5702 | 名古屋小隊 ☎052-935-7875 |
| 渋谷小隊 ☎03-6261-2447 | |

西日本連隊（地区）

- 本部 大阪市北区天神橋3-6-20 ☎06-6351-0084
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 京都小隊 ☎075-343-3726 | 広島小隊 ☎082-262-3776 |
| 天満小隊 ☎06-6358-6679 | 呉小隊 ☎0823-25-4794 |
| 泉尾小隊 ☎06-6551-9187 | 高知小隊 ☎088-822-0365 |
| 神戸小隊 ☎078-341-4594 | 八幡小隊 ☎093-652-1584 |
| 岡山小隊 ☎086-227-9029 | 福岡小隊 ☎092-531-7418 |
| 福山小隊 ☎084-926-3151 | |

士官学校・資料館

救世軍士官学校

救世軍士官（伝道者）を養成する学校です。（全寮制・2年間）
 〒166-0012 東京都杉並区和田1-40-17 ☎03-6256-8262

山室軍平記念救世軍資料館

日本における救世軍の資料や、山室軍平に関する文書、資料を所蔵。祝祭日を除く毎土曜に開館（10時～16時）しています。
 〒166-0012 東京都杉並区和田2-21-39 ☎03-6256-8194

日本の救世軍は、小隊（教会にあたる）での伝道や地域奉仕とともに、児童養護、女性自立支援、高齢者介護、アルコール依存症者回復支援、保育施設、学童保育、バザー場を通して様々な社会福祉の活動を進めています。



帯広小隊で、子どもと大人と一緒にピザ作り。生地を発酵を待つ間に聖書のお話を聞き、イースターのエッグハントを行いました。焼き立てピザをおいしくいただきました。



北海道、遠軽小隊の社会鍋。各地域のニーズに少しでもお応えしたい思いで募金活動を行います。



東京、神保町の本営前にて社会鍋を立て、災害救援用給食車にて温かいスープサービスを行いました。



地域の多世代に向けた“みんなの食堂”。子育て中の家族同士がイートインスペースで交流する様子も見られます。現在、食品の寄贈を募集しています。

福祉の仕事 interview

救世軍では児童養護施設も運営しています。そこで子どもたちを支援している職員に、施設での仕事内容ややりがいについて聞きました。

「長いスパンで子どもたちと関わることができるのが醍醐味です」



グループホーム「アカシヤ」
ついでに
筒井勝利祈 職員

子どもと関わる仕事がしたいと考え、働いていたパン工場をやめて保育の専門学校に通い、保育士免許を取得。「関わるなら昼夜を問わず、なるべく長い時間が良い」との思いで、児童養護施設で働き始めた。

児童養護施設 救世軍世光寮のグループホーム「アカシヤ」で、筒井職員は家庭復帰や自立を目指す子どもたちと一緒に暮らしています。世光寮を選んだ理由は「できるだけ家庭に近い環境である小舎制の施設であること」と「子どもたちと職員の距離が近く、子どもたちが発言しやすい空気が流れていたこと」。子どもたちが職員を“先生”ではなく“さん”づけで呼ぶのも堅苦しくなくて好きです、と筒井職員は話します。

—具体的な仕事内容は？

基本的な生活スキルを身につけてもらうため、子どもたちと一緒に様々なことを行っています。例えば調理。養育困難な家庭からの子どももおり、切られた状態の野菜しか見たことがない場合もあるので、一緒に買い物をして調理することで素材を知ってもらいます。子どもですから、細かい生活スキルは繰り返し教えてもなかなかできない場合が多いのですが、ずっと一緒にいられるので変わっていく姿を見守ることができます。そこにやりがいを感じています。

—活動にあたり、心がけていることは？

虐待を受けた子どもはトラウマを抱えていて、ふとしたタイミングでフラッシュバックを起こすことがあります。そうしたときは必ず理由を考えます。食卓で隣に男性職員が座ると父親を思い出して怖がる気づいたら、座席を配慮するなど。また、子どもが学校などで悪いことをして帰ってきたときは、なぜそうしたのかを一緒に考えます。生い立ちにそのわけがあることも多いです。子どもと話をしながら、言葉にできない心の叫びを聞いていくことと、個々にケアしていくことの大切さをいつも強く感じます。



都内にある救世軍世光寮。子どもたち一人ひとりを理解し、分け隔てなく接することで、大切にされていると実感できる支援を目指しています。

すべての人に心の居場所を

伝道

全国の小隊（教会にあたる）では毎週日曜日の礼拝や音楽活動など、様々な集会やイベントを行っています。また、礼拝のほか、地域奉仕の拠点としても機能しています。



夏のキッズキャンプ。神様が造られた自然の中で仲間と楽しく遊び、神様や聖書のことを学びました。



アメリカからの伝道チームが仙台小隊でカフェチャーチ。女川向学館など地域の子どもたちとも交流しました。



神戸小隊。阪神・淡路大震災後に献堂された会館前で、バンド演奏とタンバリン操練。



コロナで中止していたミュージック・キャンプを再開。世代を超えて共に神様を賛美し、新しい力と希望を受けました。

会員や信徒でなくても、どなたでも参加できる活動も行っています。随時、活動にご参加いただける方をお待ちしています。

すべての面で健康に

医療

ホスピスを併設した2つの病院を通して、人が身体的・精神的・社会的・霊的に健康な状態となることを目指す「全人的」な医療と介護に取り組んでいます。

両病院とも、(財)日本医療機能評価機構認定病院となっており、どなたでもご利用いただけます。



清瀬病院では、新たに介護医療院シャロンを開設しました。生活の場をより大切にしながら最適な介護・看護と必要な医療を提供する施設です。

採用情報



『できるだけ自然に、できるだけ穏やかに、誰もが愛される存在だから』
～救世軍医療部目標～

救世軍医療部の各施設では、その働きを一緒に支えていただける看護職・介護職のほか、相談員やケアマネジャーなど職員を募集しています。

【医療部公式ホームページ】

右のQRコードを読み取っていただくと、医療部各施設の紹介や採用情報のほか、お仕事説明会・講演会などの各種イベント情報が閲覧できます。



2024～2025

主なイベントスケジュール

2024年

- 7月2日 救世軍創立159周年記念日
- 7月～8月 キッズ・キャンプ、夏期聖書学校
- 8月15～17日 軍国ユースキャンプ（静岡県）
- 9月8日 感謝祭オンラインイベント
- 9月 感謝祭募金
- 9月22日 救世軍日本開戦129周年記念日
- 9月22日 人身取引被害者のための祈祷日
- 10月 士官志願者及び献身者祈祷月間
- 10月12日 召天者合同記念会（多磨霊園）
- 10月20日 きずな献金献納式
- 11月23日 チャリティーコンサート
- 11月30日 社会鍋の日
- 12月1日 アドベントに入る
- 12月10日～31日 社会鍋募金運動
- 12月22日 クリスマスサンデー
- 12月25日 クリスマス

2025年

- 3月 克己週間募金
- 4月20日 イースター
- 6月1日 医療サンデー
- 6月8日 ペンテコステ
- 11月22日 チャリティーコンサート
- 11月23日 大将を迎えての大会聖別会

Salve (サルヴェ)

救世軍 年次報告 2023-2024

The Salvation Army in Japan Annual Report 2023-2024

発行者 代表者 スティーブン・モーリス

発行所 救世軍本営 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17

TEL 03-3237-0881

FAX 03-3237-3588

制作 株式会社 TARO WORKS

発行 2024年7月

「Salve」はラテン語で「こんにちは」という意味です。救世軍から支援者の皆様への挨拶の思いを込めて、年次報告のタイトルとしました。また、英語では「Balm（軟膏）」と同じ意味があり、このタイトルで「傷をよくする」「癒しにつなげる」という救世軍の信条もあわせて伝えられたらと考えています。




救世軍の活動は
皆様のご寄付・ご支援により支えられています。

HPで寄付する



<https://www.salvationarmy.or.jp>

救世軍公式 SNS

 ・救世軍 The Salvation Army
・救世軍青少年部チャンネル

 @SArmy_JP

 @SArmy_JP

 @SArmy_JP

 @sarmyjp



救世軍の活動は、国連が進める「持続可能な開発目標 (SDGs)」のうち、次の目標達成に貢献しています。



貧困をなくそう



飢餓をゼロに



すべての人に健康と福祉を



ジェンダー平等を實現しよう



つくる責任、つかう責任